

大阪日々新聞

明治八年

夫狂主者者定其妻の外邪淫を
禁めしむ宜む哉茲小播乃龍聖下
云所何某と云有夫婦の下女
一人を仕る主此下女竹に
心を向け夜毎く小主の

竹の方を
仰ぐ
妻嫉
妒の心深
く夙夜
忘る隙をえ法
より外時をまう四月十七日の
ころが主家用を他行を幸ひと
竹を呼て雨を頼有命が切きト云
より早く殺し陰門を締めさて下
りて血入置主大飯宅及し酒肴を
出右の刺身を喰うめ主の白此指味の
何より貫を問ふそれ奥かいる人が贈られと云
主酒肴すくと奥行見まが女ハ赤けと云
死てり其間の
柳櫻記



柳櫻記

川傳梓

彫寅

